



第5回 心を育てる地域と世代部会



【摘録】

日時：平成25年3月8日(金)18:15~20:15

場所：宮前区役所4階第1会議室

【進行：大槻部会長】

1 出席確認

出席：大槻、太田、岡、佐藤、田浪、豊島、直本、平井、宮崎、山下

2 前回会議摘録の確認

別紙配布資料に基づき確認

3 区民会議交流会の報国

別紙配布資料に基づき、市長講話の概要を説明

主な参加委員のコメント

区や全市とのつながりを意識できた。他区と交流できて良かった(直本・宮崎)
フォーラム企画が他区委員に好評だった。(直本)
委員は区民会議の広報マン。幸区のように名刺をつくってはどうか。(直本・山下)
課題は期をまたいで引き継いでも良いという市長の言葉に安心した。(平井)

4 具体的な課題解決への提案を検討

意見交換→別紙のとおり意見集約

5 部会名

キーワード等あげて検討の結果「心を育てる地域と世代部会」に決定した。

6 みやまえ探検！発見！ウォークラリー トークラリーについて

別紙配布資料に基づき、各委員の当日の担当や動き方等を確認した。

3月10日に実施するウォークラリーコース下見の案内をした。

7 今後の日程

第6回 4月17日(水) 18:15~ 区役所4階第1会議室

テーマ：心をはぐくむ地域・世代間交流

【総論】 世代交流を目的とした活動は区内でも様々に展開されている。既存団体の支援、人材の発掘とリスト化などの提案が出された。（調査や情報収集、活用の方法等についてはまだ討議が不十分）また、テーマの絞り込みとして、「文化の伝承」という案も出された。

【キーワード】

心の教育、コーディネーター育成、文化の伝承、人材の発掘

心を育む地域・世代間交流に向けたポイント、課題の整理

既存の団体の活動等

- 第二社協など、世代間交流を目的・テーマとした活動を展開している団体が区内にいくつかある。（山下）
- 「風の泉」という団体が区内4小学校で展開している九九の暗誦を聞く活動は世代交流を目的とし、誰でもできる活動として展開している。区民会議で支援してはどうか。（田浪）
- 宮崎台でこどもに将棋を教える活動など、担い手が減ってきてしまっている活動もある。（山下）
- こども文化センターの運営協議会・利用者会議などは多様な活動団体が集まる場となっている。（平井・豊島）

場について

- 学校以外の地域で交流する場の形成。例えばこども文化センターや町内会館など。（平井・大槻）
- 高齢者を引っ張り出し、活躍の場を与えることが重要。（山下）
- 世代交流に貢献している、世代交流を目指している既存の活動団体の支援を展開する（田浪）
- 地域を総合的な視点から俯瞰して、コーディネートする場が必要。（岡）
- モデル実施→検証からはじめ、ひろげていく。（岡）

新たな人材の発掘・調査方法（案）

- こどもに伝えたい体験や知識を持った地域の人材のリスト化とその共有を図りたい。（太田）
- 各町会に呼びかけて、知識や特技をもった人材の発掘調査を行ってはどうか。（大槻・平井・太田）
- 積極的な学校をモデルに、面談などの突っ込んだ調査を行う。（大槻）
- リスト作成だけでなく、その活用や管理、活躍の場づくりが重要で難しい。（事務局）
- リスト作成や活用方法の調整など、膨大な作業を誰がやるのか考えながら議論をした方が良い（田浪）
- 既存の地域や団体、それぞれが持つ情報や人材等の関係を一度整理する必要がある。（コンサル）
- 漠然と人材探しをするのではなく、テーマの絞り込みが必要→「文化の継承」が鍵になりそうだ。（大槻・直本）

2つの提案の方向性

- ①既存の活動がやりやすくなるように支援をしていく ⇒既存活動団体のニーズ把握が必要
例：学校支援センター、九九暗誦「風の泉」
- ②区民会議で新たな仕組みを構築する ⇒担い手を意識した議論が必要
例：地域人材を発掘しデータベース化、発掘した人材をキャリア教育などで活用